

これまでで経験のない豪雨災害

町内全域に大きな被害

大量の泥と流された木が道路をふさいだ海生中平線（貝生）

記録的な大雨

7月17日夕方から18日にかけての激しい雨は、降り始めから24時間の雨量が250ミリを超える記録的な大雨となりました。特に18日午前8時から3時間の雨量は119ミリを記録し、町内全域に甚大な被害をもたらしました。

町では、18日に災害対策本部を設置し、災害発生当初から各地区の自主防災組織、消防団、町内事業者等の協力をいただきながら応急対応にあたりました。

しかし、22日に再び大雨に見舞われ被害はさらに拡大。同日午後には町内10地区に避難勧告が発令されました。その後、貝生川の決壊により、流域の一部には避難指示が発令され、町内全体で約300人が一時避難する非常事態となりました。

さらに、27日には細野地内の沼が決壊するおそれがあるため、滝野地区の一部に避難指示と避難勧告が発令されました。

この間、県知事をはじめ、地元選出の国会議員、県議等から現地を視察いただきました。

林道等については現在も被害を確認中ですが、「広報しらたか8月12日号」では7月豪雨災害の被害状況等をお知らせします。